

『東北圏だより』



第29回国民文化祭・あきた2014

秋田県では10月4日から11月3日までの1か月間、「第29回国民文化祭・あきた2014」が開催されます。国民文化祭は、全国各地で様々な文化活動に取り組んでいる方々が日頃の活動の成果や実力を披露し、広く交流を深める「国内最大の文化の祭典」です。昭和61年に第1回大会が東京都で開催され、平成26年の秋田県で29回目の開催となります。

秋田県



▲文化を旅するポスター

今回のテーマは「発見×創造 もうひとつの秋田」。伝統的な秋田の文化の発信に努めながら、新しい取組にも力を入れ、出演者や観客の皆様が思い思いに「もうひとつの秋田」を見つけていただきたいというねらいを込めたものです。

県内の全ての市町村において、伝統芸能、音楽、舞踊・舞踏、文芸、美術、アートプロジェクトなど多彩な分野で110のイベントを実施しますが、「もうひとつの秋田」を見つけてもらうためには、県内を巡り、様々なものに触れてもらう必要があります。このため、国民文化祭の開催事業のみならず、食や酒、自然や歴史など、秋田県の多彩な魅力を堪能してもらいたいという思いを「文化を旅する」というメッセージに込めて、ポスター、ガイドブック、ウェブサイトなどを通じて広く県内外に情報発信しています。



▲大いなる秋田の演奏

10月4日の開会式・オープニングフェスティバルでは、県民に長く親しまれてきた「大いなる秋田」を管弦楽、吹奏楽、合唱の新編成600名で演奏、秋田民謡や伝統芸能などのパフォーマンスを織り込み、総勢850名で壮大なステージを展開します。

また、11月3日のフィナーレイベント・閉会式では、秋田県が誇る全国最多17件の国指定重要無形民俗文化財が秋田市の中心市街地を会場に一堂に会し、実演・披露するとともに、東日本大震災の被災3県から文化団体を招へいし、全国に向け東北の文化を発信します。このほか、閉会式での創作ミュージカル「未来への架け橋」では、秋田の伝統文化の魅力と文化継承の大切さを伝えます。



▲フィナーレイベント（美の国あきた 文化の彩り）

国民文化祭の会期中の10月は、紅葉が見頃を迎え、食べ物やお酒も美味しい季節です。加えて、秋田には自然と四季の変化が織りなす風土の中で醸成され守り育てられてきた文化が数多くあります。この国民文化祭を通じて、全国に秋田の魅力を発信し、さらに秋田を盛り上げてまいります。ぜひ、秋田へお越しください！

経済産業省では、今年度から広域的なネットワークを形成し、当該地域の特色ある自然、歴史文化、町並み、生活様式、農林水産物、食文化、地場産品、伝統技術等の地域資源を活用した新たなビジネスモデルの構築を行うことを目的とした、支援施策『地域資源活用ネットワーク構築事業』を実施しています。東北地域から2つのテーマが補助事業として採択されました。

■東北六市連携によるお祭りを核とした誘客・地域産品プロモーション事業（仙台商工会議所）

東北六魂祭で培った、東北六市、各市商工会議所、各市観光協会等とのネットワークを最大限に活用し、東北六市が一体となって、海外にもインパクトある「お祭り」という地域資源を活用し、海外からの誘客や地域産品の販路拡大などのプロモーション事業に取り組んでいます。10月には第1回 RISING TOHOKU FOOD FAIR（ライジング トウホク フードフェア）—東北復興応援フェアがアメリカで開催され、東北各地の物産品の販売や、「七夕」や「ミニ竿灯」の飾り展示や「さんさ踊り」「花笠踊り」などの本物披露など東北六市の六つのお祭りのPRを行うこととしています。



▲六市が連携した東北六魂祭（2014 山形）

第1回 RISING TOHOKU FOOD FAIR 事業概要（仙台市発表資料）

<http://www.city.sendai.jp/kaiken/140826kanko2.html>

■「にいがた・あいづ食の陣」ネットワークによる酒と食の新連携事業（特定非営利活動法人素材広場）

新潟と会津にとって「日本酒」は地域経済を左右する重要な地域資源です。会津と新潟では「あいづ食の陣」「にいがた食の陣」といった行政と民間が共同で企画・運営している「酒と食」とおした地域活性化の取組があり、今回は両地域の「食の陣」が連携し、酒に合う料理の研究や両地域を回遊する仕組みづくりを協議しながら、日本酒のブランド地域を目指し、インバウンドとあわせ、国内外への販路開拓を目指しています。

あいづ食の陣ホームページ <http://aizu-shokuno-jin.jp/>

にいがた食の陣ホームページ <http://www.shokuno-jin.com/>



東北地方産業競争力協議会では、東北地域が一体となり地域資源の新たな魅力を発掘し、発信することで東北地域の産業を成長させていくという戦略をとりまとめました。東北経済産業局でも関係機関と連携し、広域的に一体となって進める取組を支援することで、国内外に向けたインパクトのある事業の実施・情報発信を進め、海外旅行者の東北への誘客や魅力的な地域産品の海外販路開拓につなげていきたいと考えております。

編集後記

近年の降雨は局地的で、かつ豪雨になる傾向があります。先月の広島市での大規模土砂災害も、局地的豪雨により引き起こされました。最近読んだ新聞記事に、『過去に土砂災害が起きていない場所でも、局地的豪雨により災害が起こる可能性があり、必ずしも安全とは言えない』という専門家の意見が掲載されておりました。

『備えあれば憂いなし』という諺がありますが、普段から起こりうる全ての事を想定し、対応を考えながら行動したいと考える今日この頃です。各構成機関の皆様におかれましても、情報収集に努め、様々な災害に備えて万全の体制を整えましょう。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。
メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp